

講義名	ソーシャルワーク総論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	岩崎 久志		
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 4時限		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		講義コード	54035

### 主題と概要

ソーシャルワーク総論 に引き続き、ここでは、ソーシャルワーク及び社会福祉士の役割と意義について学ぶ。特に、ソーシャルワークの歴史に焦点をあてながら、社会福祉の援助技術であるソーシャルワークがどの様に形成され、どの様に発展してきたのかについて学ぶ。また、少子高齢社会における現代社会の多様な生活問題に対しての包括的な支援のあり方について学ぶ。

### 到達目標

ソーシャルワーク専門職（社会福祉士）として必要なソーシャルワークの方法の理念やアプローチについて理解を深める。  
社会福祉の援助技術であるソーシャルワークの人間観や援助関係についての理解を深める。

### 提出課題

その都度指示する。

### 評価の基準

授業態度（出席や授業への貢献度など）、授業毎の振り返りおよび期末試験によって総合的に評価する。

### 履修にあたっての注意・助言他

私語厳禁、授業に積極的に参加すること。

### 教科書

.使用しない。

### プリント資料及び参考文献

その都度指示する。

### 授業計画

1. 現代社会において、ソーシャルワークは何をすべきか、社会において期待されているのか。
2. 専門援助技術としてのソーシャルワーク登場と発展  
(1) ソーシャルワークの源流とアメリカにおける発展
3. 専門援助技術としてのソーシャルワーク登場と発展  
(2) メアリー・リッチモンドとケースワークの誕生
4. 専門援助技術としてのソーシャルワーク登場と発展  
(3) 診断主義ケースワークと機能主義ケースワーク  
(4) 診断主義ケースワークの面接事例及び機能主義ケースワークの面接事例
5. 専門援助技術としてのソーシャルワーク登場と発展  
(4) ソーシャルワークの専門職化と心理主義的アプローチに対する批判
6. 専門援助技術としてのソーシャルワーク登場と発展  
(5) ケースワークの「ソーシャル」への回帰  
(6) パールマンの「役割概念」の導入と「問題解決アプローチ」
7. 助けを求めない人々の発見とソーシャルワーク  
アウトリーチアプローチとアグレッシブ・ケースワークの登場  
エンパワメントアプローチの登場
8. アグレッシブケースワーク 事例と考察
9. エンパワメントアプローチの展開と事例
10. グループワークの起源と展開
11. グループワークとグループダイナミクス
12. グループワークの原則
13. 様々な場所で展開されるグループワーク事例
14. ソーシャルワークと地域福祉との連携
15. ソーシャルワーク総論の振り返り

### 予習・復習

できるだけ前期に開講されるソーシャルワーク総論 で学んだ内容を踏まえ、授業に臨んでほしい。  
予習としては、毎回提示する次回授業で取り上げる内容予告を参考にして、現代社会における福祉や生活問題との関連を想像しながら、対人援助のあり方について意識を持って授業に参加しよう心掛けることを望む。  
復習は、授業内容を自分なりに整理し、配布資料や授業にて紹介する文献等も参考にしつつ、知識を習得するべく努めてもらいたい。また、疑問点やわからないことがあれば、遠慮なく質問をしてほしい。不可解なことを積み残しにしない

### 備考

前期に開講されるソーシャルワーク総論 を履修済みであることが望ましい。